

○8番 谷口琉生君

行橋中学校2年、谷口琉生です。私は、自転車中のスマホ・イヤホンについて、質問します。

現在、自転車走行中のスマホ・イヤホンをする人が増えていると思います。調べてみると、パーソルキャリア・東京都千代田区の調査結果では、自転車走行中のスマホを使用する人は13.7パーセント、自転車走行中のながらスマホに危険だと感じたことがある人は89.1パーセントと、9割近いことが分かりました。

また、NTTソノリティという会社の自転車ユーザーのイヤホン走行とヒヤリ・ハット経験に関する調査の結果では、普段自転車に乗りイヤホンを使用している人は11パーセント、10人に1人で、自転車走行中のイヤホンで車や歩行者と接触しそうな危ないことが起こったが、幸い事故には至らなかった、ヒヤリ・ハットした経験があるという人が約40パーセントである、と書いてありました。このアンケートから、自転車走行中のイヤホン・スマホは大変危険だと分かりました。

なので、事故を防ぐために、市の広報などで呼びかけをしてほしいと思いますが、執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

谷口議員の御質問にお答えしたいと思います。まず、議員に細かい数字をあげていただきまして、非常に説得力のある御質問でございます。やはり前方不注意となり、音が聞こえないということで、大変危険な状態にあると思います、いわゆるながら運転ですね、こういったものが全国的に広がっているということで、令和6年11月に道路交通法が改正されました。そしてこの危険な自転車運転に対する罰則というものが実際にできております。

こういったことを踏まえたうえで、我々は、まず行橋警察署と情報を共有しまして、実はホームページなどでも情報発信をしております。また、ことしの2月に福岡県が自転車の学校という、ネット上での記事を作っているのですが、こういったものを実際に市のホームページなどで広報しております。以上でございます。

○前半議長 淵上愛衣君

谷口議員。

○8番 谷口琉生君

自転車の学校など、様々な取り組みがされていることが分かりました。ですが、ホームページまで確認する人は、あまり少ないと思うので、もう少し目に入りやすくなるよ

うに、何か工夫をしてほしいのですが、何かありませんか。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えさせていただきます。本当にそうなんですよね。いま行橋市では、公式LINEがあります。これは登録者が2万4千件ほどあるんですけども、これはセグメント方式と言いまして、選んでいただいた項目、例えばイベントや福祉に関することなど、チェックしていただいた項目の情報だけがその都度届くといったものがございます。

これはですね、登録しておく、勝手に市から情報が発信されますので、市の情報に対しても結構ですね敏感に反応していただけるというか、そういうところがあると思うんですけども、実際になかなかホームページにアクセスをいつもするかといえば、されないと思うんですね。ですから、一つの案としましては、教育委員会と話しまして、すぐやる、そういったものを使って、実際に皆さん方、まずは保護者の皆さん方に直接お届けするとか、あるいはタブレット端末に直接情報を流すとか、そういうことが考えられると思います。

皆さん方にも、ぜひとも市の情報を、毎月市報といったもの、広報ゆくはしといったものも御家庭に配布されますけれども、そういったものもぜひ自ら進んで情報を取りにいていただきたいですし、同時に我々としまして、より効果的な広報といったものを考えて情報発信をしてまいりたいと思います。以上です。

○前半議長 淵上愛衣君

谷口議員。

○8番 谷口琉生君

ありがとうございました。次の質問に移ります。

次に、カーブミラーの設置について質問します。行橋市にはたくさんのカーブミラーが設置されていると思います。でも、一部の場所には置かれておらず、少し危険に感じています。今後、行橋市の人口が増えてきたときにもカーブミラーを増やすのは、安全、事故防止のために必要だと思います。

カーブミラーの設置を市役所が決めるのは難しいかもしれませんが、危ない、まだカーブミラーが設置できていない場所への設置をお願いしたいのですが、執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。まずこのカーブミラーというのは、カーブミラーがあれば絶対に安全だという保障はございません。これに関しましては、あくまでも補助施設といったものになります。ですから、最終的には、自分の目でしっかりと確認していただく、これが必要でございます。これが原則ですね。

現在、行橋市内には約3,600箇所カーブミラーが設置されております。これは例えば地元の区長さんからご要望があったり、あるいは市民の方から直接ご相談があることもあります。このカーブミラーの設置は、年々増加しているんですね。年間大体30箇所程度、設置をしている状況です。ですので、まず全体的なバランス、より危険な箇所に設置をしていかなければいけないと考えておりますので、市民の皆さん方からいただいたご意見を踏まえて、そして現場を実際に確認させていただいて、そして危険度の高い所を優先的に設置させていただきたいと思っています。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

谷口議員。

○8番 谷口琉生君

年々カーブミラーが増えてきていることが分かりました。ですが、もし危険だと思い、カーブミラーを設置してほしいなと思った場合は、どうすればよいのですか。

○前半議長 渕上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

交通安全プログラムというのがあります。これは警察署、それから国・県、市道の担当者と小学校の関係者、学校の先生やPTAの方々が関わる場合もございます。

この行橋市通学路交通安全プログラムという名称ですけれども、こういったところで危険箇所などを事前に調査したりして、そしてそのプログラムの中で実際に対応していく、プログラムを教育委員会がいただいて実際に整備をさせていただいたり、場合によってはカーブミラーを設置させていただいたりしております。

今この議場で議員から直接ご質問もいただきましたので、また教育委員会を通じて、どこの場所なのか、そこは把握させていただきたいと思います。

同時に、ぜひとも学校でも先生に言っていただければと思います。実際に、この交通安全プログラム、学校からいろいろ実際にあがってくるパターンもありますので、学校の先生にもぜひ言っていただければと思います。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

谷口議員。

○8番 谷口琉生君

以上で質問を終わります。前向きな回答を、ありがとうございました。